

社会科 授業づくり講座

in 香美市立鏡野中学校

授業をアップデート！
生きて働く学びを創る！

東部管内の
講座情報



令和5年3月発行
東部教育事務所



- ★課題の追究・解決を通して資質・能力を育成する単元づくり ～指導と評価の一体化～
- ★授業力の向上 ～授業改善のPDCA～
- ★人のつながり、学びの高まりの構築 ～他者との交流から学びの質を高める講座～

単元: 第3学年「国民の生活と政府の役割」学習指導要領解説 P146～150

◆本単元終了時の目指す生徒の姿: 国民の生活と福祉の向上を図ることに向けて、国民の納める租税が重要になっていることを理解しているとともに、希少性や持続可能性、効率と公正に着目して、財政の状況や少子高齢社会等の現代社会の特色と関連付けて、税制度の意義や在り方について多面的・多角的に考察・構想し、表現することができる姿。

～鏡野中学校社会科部会からの提案～

生徒の実態

●社会的事象の背景や影響、因果関係を捉えた意味理解が不十分であり、知識の定着に至っていない。

本単元での重点取組

- パフォーマンス課題を設定し、課題解決的な単元をデザインすることで、現代社会の見方・考え方を働かせ、獲得した知識を活用させながら事実や概念等に関わる知識を習得させる。
- 一人一台端末を活用して、課題解決のために必要な情報を生徒自身に収集させるとともに、集めた情報を根拠として構築した考えを他者に説明する場を設定する。



学校提案の様子

10月14日(金) 教材研究会

Before

単元を貫く問い

高知県が持続可能な財政を実現するためにはどうすればよいのだろうか？

各時間の問い

- 第1時 自分の身の回りで税金が使われているものは何だろうか？
- 第2時 日本や高知県の財政には、どのような課題があるのだろうか？
- 第3時 政府や高知県はどのように税金を集めているのだろうか？
- 第4時 高知県はどのように税金を使っているのだろうか？
- 第5時 日本と他国の税制度の違いとは何だろうか？
- 第6時 高知県が持続可能な財政を実現するにはどうすればよいのだろうか？
- 第7時

協議より

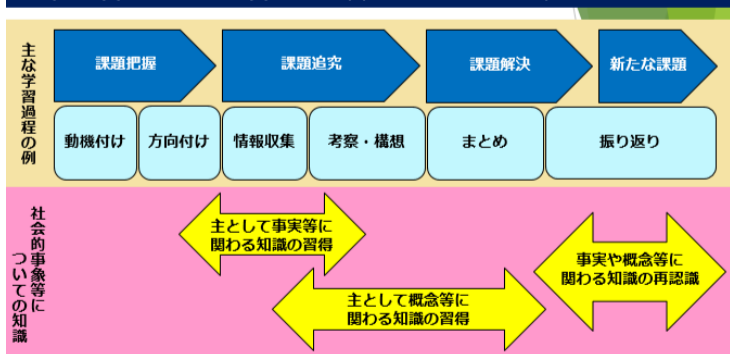
- ・地方自治を扱う単元との明確な区別はあるのか？
- ・単元を貫く問いが「高知県の財政」に留まると税制度の改革などの意見が出にくいのではないのか？
- ・「政府の役割」を理解できるようにするためには、日本の税制度について他国と比較したり、歳出と歳入の課題に対する政府の取組に着目したりすることが必要ではないか。



指導主事より

まずは、財政の現状について生徒が課題意識をもつことがポイントです。そして、課題に対して政府が何を行っているのか、他国はどうか、解決するためにはどうすれば良いのか、といった、課題解決的な単元になるようにしましょう。そのためには、各時間の問いや評価規準と目指す生徒の姿との整合性について見直すとともに、単元末に、持続可能性・効率と公正・希少性などの見方・考え方を働かせて取り組むパフォーマンス課題を設定し、単元で学んだ知識や収集した情報を活用させることも効果的です。

社会科、地理歴史科、公民科における学習過程のイメージ



〈参考〉幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）
別添資料 H28年12月21日 中央教育審議会

After

1月31日(火) 授業研究会

単元を貫く問い

持続可能な財政の在り方とは？

各時間の問い

- 第1時 税金が使われているものは何か？
- 第2時 日本政府はどのように歳入を確保しているのだろうか？
- 第3時 歳出にはどのような課題が見られるのだろうか？
- 第4時 日本と他国の税制度の違いから、日本の財政に生かせることはないだろうか？
- 第5時 【本時:パフォーマンス課題】防衛費拡大に伴う法人税の増税は妥当か？
- 第6時 持続可能な財政の在り方とは？

本時の様子

課題に対する自己の考えを全体共有

日本の法人税率は外国と比較すると高いよね。そもそも税制度自体を見直す必要があるのかもしれないね。

他者からの気づきを基に意見を再構築

根拠となるデータを示しながら意見を共有

蓄積したデータや新聞資料を基に意見を構築

近年、法人税率が引き下げられているのに対して消費税率は引き上げられていることがグラフから分かりました。国民の負担感を大きくせずに拡大する防衛費を確保するには、大企業からお金を集めることは効率的かつ公正だと判断したため妥当であると考えました。

授業後の生徒インタビュー

協議より

- ・働かせる見方・考え方を板書に示す等、明示的に指導したことで、生徒は、持続可能性や効率と公正の視点をもって意見を構築することができていた。
- ・歴史的分野との関連付けを図ることで、パフォーマンス課題がより自分事になるのではないか。

授業者: 國澤 将文 教諭より

課題解決的な単元をデザインしてパフォーマンス課題を設定したことで、それぞれの生徒が必要な情報をどんどん収集して意見を構築したり、社会科が苦手だった生徒も積極的に他者と意見を交流したりすることができるようになりました。



國澤 将文 教諭

愛媛大学教育学部 井上 昌善 准教授 より

〈本授業に対する気づき〉

○単元を貫く問いの「持続可能な財政の在り方とは？」とパフォーマンス課題の「防衛費拡大に伴う増税問題の議論」の関連性がとれているか
→持続可能な財政の在り方に迫るためには、税制などの既存の社会制度に対するクリティカルな思考を促す指導の充実が必要である

〈本単元の代案〉

- 1時 税金が使われているものは何か？
- 2時 我が国の歳入の現状と課題とは？
- 3時 我が国の歳出の現状と課題とは？
- 4時 他国の税制度はどのようになっているのだろうか？
- 5時 歳入と歳出のバランスをとるためには？
- 6時 持続可能な財政の在り方とは？



井上 昌善 准教授

〈社会科だからこそ育成可能な資質・能力とは〉

次のどちらの問いが思考を深める問いと言えるのか

- ①自動販売機で何を買いますか？ ②自動販売機を地域に設置するとしたらどこに置きますか？
- ①は個人的な思考に基づく判断、②は公的な問題についての判断が求められる
- 社会科は、②の公的な問題について考え、公正に判断する公民育成を目指す役割を担う教科

〈社会科における深い学びの条件〉

- ①「知識の変革的成長」を保障しているか
 - ・社会事象の因果関係や結果や影響を解釈、説明することができる質の高い知識を捉えること
 - 「社会的な見方・考え方」を成長させる授業
- ②子供の学習への社会的な意味付けを保障しているか
 - ・これからの教育活動は、社会参画意識の醸成という観点から市民的レリバンス(レリバンス=有意味性、関連性)の視点を踏まえた授業デザインが要請される
 - 学習内容の社会的意味の美感的理解